

## ～研究の経過と概要～

### 1 研究主題

#### 「わたしの音楽 みんなで音楽」 ～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

### 2 研究主題について

山梨県の各小・中学校においては学習指導要領の内容を踏まえ、各教科における基礎・基本の確実な定着を図り、「生きる力」の育成を目指して特色ある教育活動の展開に努めている。

各小・中学校の音楽科においては、子どもたちが楽しく進んで創造的に音楽活動にかかわりながら音楽の喜びを体得し、生涯にわたって音楽に親しむことができるように、「音楽を愛好する心情の育成」「音楽に対する感性の育成」「音楽活動の基礎的な能力の定着」を図る様々な研究を進めている。

さらに、平成14年からは、山梨県教育委員会が策定した「基礎学力向上山梨プラン」との関連を図りながら、特に「楽しい音楽活動の中で身につけるべき基礎的な能力の定着」（音楽を聴く力、音楽を表現する力、音楽を合わせて楽しむ力）を目指し、学習内容や効果的な指導法の研究を進めている。

新学習指導要領では、一人ひとりの児童生徒がより主体的に音楽を学ぶことを目指している。子どもたちがその音楽のよさを感じ取り、思考、判断して自分達のイメージにあった表現を導き出そうとするなど、音楽の授業が「思考・判断・表現」する場となることが、いっそう求められている。そして「私が感じた音楽」「私が工夫した音楽」「私が表現した音楽」「私がつくった音楽」など、音楽を通した自己実現として表れたり、「私がいいなと思う音楽」「私が好きな音楽」など、一人ひとりが自分の価値観を持って音楽を愛好し、自分の言葉でその音楽のよさを説明したりすることができるようにすることが、音楽の学力として求められている。

このように子どもたちが音楽を価値あるものとして受け入れたり、目の前の音楽を形づくっている要素について、感じ取ったイメージから工夫を考えたり、お互いのイメージを共有しながら、みんなで音楽を試行錯誤したりする活動は、とても重要であると考えられる。

子どもたち一人ひとりに「その子の音楽」が根付き、音楽を通した自己実現として表れることを願い、本主題を設定した。

これまで音楽の諸要素という言い方で表現してきたものが、新学習指導要領では、「音楽を形づくる要素」として示された。共通事項を核とした音楽の様々な要素を子どもたち一人ひとりが知覚し、感受する場を設定しながら題材を展開し、その一つ一つを確実に表現する力を身につけさせていきたい。同時に音楽の中にあるそれらの要素を総合的に聴きながら、音楽全体のよさを味わうことができる力を身につけさせることも必要である。そして、初めて聴く音楽に対しても、自分のもつ音楽の力でよさを味わい、表現や鑑賞を通して楽しんでいける子どもの育成を目指したい。

### 3 研究の具体的内容と方法

#### (1) 研究の具体的内容

##### ①教材研究

- ・音楽科としておさえるべき基礎・基本の分析
- ・教材選択の視点の明確化

(この教材を通じて、子どもたちにどんな力をつけさせたいか)

##### ②授業研究

- ・子どもたちがそれぞれの思いを実現し、音楽的満足感を味わえる授業の工夫
- ・音楽を形づくっている諸要素をどのように知覚・感受させ、よりよい表現につなげていくか
- ・指導と評価の一体化の実践

##### ③明日の授業づくりのために

- ・講習会 (音楽づくり・創作)
- ・音楽発表会
- ・教職員合唱
- ・実践報告 (各自) 歌の紹介や指導の工夫、実践についての情報交換を行う。
- ・音教研の還流報告

#### (2) 研究の方法

- ・教育研究日 (10回 うち授業研究日2回)
- ・外部講師 内部講師による講習 研究の充実
- ・お互いの実践を交流する。

#### (3) 具体的経過

	研究日	内 容
第 1回	5月8日	役員の決定・仕事の分担確認 組織作り 研究テーマ 研究計画
第 2回	5月20日	本年度の研究について 春季教研の報告 授業者の決定
第 3回	6月3日	研修①「音楽づくりの指導と実践」秋山小学校 原田弘明先生
第 4回	8月3日	研修②「音楽づくりの指導と実践」常永小学校 雨宮宏幸先生 授業案検討 (松里中学校 武藤真由美先生) 合唱練習 実践報告①
第 5回	8月28日	統一授業研① (松里中学校 武藤真由美先生)
第 6回	9月30日	県教研に向けて 研修③「音楽づくり・創作についての学習会」 長谷部匡俊先生 合唱練習

#### (4) 報告書作成参加者，共同研究者

(共同研究者)

丸茂和也 (日川小教頭)

(山梨支会)

鈴木千秋 (加納岩小) 藤本理奈 (加納岩小) 小宮山万里 (加納岩小) 野呂瀬絢佳 (加納岩小)

川崎幸江 (後屋敷小) 丸山なつみ (後屋敷小) 高野栄子 (山梨小) 行田玲子 (日川小)

竹川美和 (牧丘第二小) 平塚すみり (三富小) 筒井美佐子 (山梨南中) 小林直子 (山梨北中)

平山昌実 (山梨北中)

(甲州支会)

武井浩 (塩山南小) 小林由紀子 (大藤小) 藤原和美 (大藤小) 武井奈穂 (大藤小)

千頭和絵里奈 (玉宮小) 柏原真澄 (東雲小) 廣瀬敦子 (菱山小) 鈴木奈津美 (大和小)

萩原久子 (塩山中) 水上陽介 (塩山中) 雨宮雄貴 (塩山北中) 武藤真由美 (松里中)

山本順美 (勝沼中) 富田照也 (大和中)

### ～実践のねらい～

学習指導要領においては，児童・生徒の音楽との主体的な関わりが求められている。

一人ひとりの子どもが，音や音楽とどのように向き合うか，そこから何を考え，吸収するかを授業の中に仕組んでいくことが私たちに求められている。

今回の授業においては，合唱への取り組みを通して，1年時からの積みあげを基に，声部の重なり方の特徴を知覚・感受して，表現を工夫することをねらいとし，子どもたちに楽譜から必要な情報を読み取る力・読み取った情報をもとに，表現する力をつけさせることを目指している。

今回の授業展開の中では，合唱曲（「証」）について，主旋律と副次的な旋律の音の動きや重なり方を感じ取り，各声部をどのように歌ったらよいのかを個で考えた後，グループ内で意見交換をし，楽曲を自分たちで創り上げていく方途をとっている。

授業の取り組みを進める中で，子どもたちは，曲の特徴に気づくことのおもしろさ，仲間と話し合い共有しながら表現していく楽しさを知り，楽曲への思いを高めていくことができたのではないかと思われる。また，この合唱曲は，中学校生活最後の学園祭で，クラス合唱として歌われた。本番でも満足のいく演奏ができ，子どもたちの思い出に残る曲となった。

この授業をきっかけに，子どもたちがこれからも歌うこと（表現する活動）を「楽しい，もっとやりたい」と思いを持って取り組んでいき，半年後に迫った卒業式では，更に素晴らしい，感動を持った合唱が聴けることを期待したい。

## 第3学年 音楽科学習指導案

指導者 甲州市立松里中学校 武藤真由美

1 題材名 声部の役割を生かして、表現を工夫しよう。

2 題材の目標

○旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。

○声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解し、それらを生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて合唱する。

3 題材設定の意図

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標(2)「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める」を受け、ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせてうたうこと」を実現するための題材である。

ここでは、曲を聴いたり合唱したりしながら、主旋律と副次的な旋律の音の動きや重なり方を感じ取り、自分の声部の役割を理解して、表現を工夫していく授業を展開していきたい。また、合唱活動を通し、仲間と話し合い共有しながら表現を工夫していく楽しさや、全員で一つの音楽をつくっていく喜びを味わわせていきたい。

(2) 本題材で位置づける〔共通事項〕

ア	旋律	主旋律、副次的な旋律
	テクスチャ	各声部の役割
	強弱	声部の役割を生かした強弱
イ	音符、休符、記号や用語	強弱記号

(3) 生徒の実態 3年A組 男子12名 女子11名 計23名

合唱活動においては、1年時より、二部合唱、三部合唱に取り組み、曲想の感じ取り、パートの役割や旋律の重なり方、曲の構成などを学習してきた。グループ学習を取り入れ、話し合いをしながら表現を工夫する場面を設けてきた。合唱を発表する機会は、学園祭や3年生を送る会が主であるが、昨年度は全国教研で発表する機会をいただいた。以前から合唱が好きな生徒は多かったが、これをきっかけに、自信を持って意欲的に取り組む生徒がより増えたように思われる。

本題材では、今まで学習してきたことを基に、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解しながら、表現の工夫の力を高めていきたい。

#### 4 教材名及び教材について

- (1) 「証」(あかし) 山村隆太 作詞 阪井一生 作曲 加藤昌則 編曲  
混声三部合唱

本校の学園祭のクラス合唱曲として、生徒たちが選曲したものである。2011年度のNHK全国音楽コンクール中学生の部の課題曲で、flumpool というグループが作詞・作曲した。この曲は、主旋律が各パートに表れたり、強弱も大きく変化したりするなど、表現の工夫がしやすい曲である。歌詞の内容も仲間の大切さをテーマにしたものであり、中学生にとって親しみやすい。中学校最後の学園祭で、思い出に残る発表となるよう、取り組んでいきたい。

- (2) 「風の中の青春」 芙龍明子 作詞 浦田健次郎 作曲 混声二部合唱

フレーズごとに、強弱や主旋律と副次的な旋律の音の重なり方が変化している構成になっているので、それらを知覚感受しやすい曲である。

#### 5 本題材での評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①曲全体や自分のパートの音に関心を持ち、意欲的に合唱活動に取り組もうとしている。	①旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 ②声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。	①声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

#### 6 指導と評価の計画 (全4時間)

時	○学習のねらい及び内容	◇学習の活動及び教師の働きかけ	・評価規準 〔評価方法〕
第1時	○「証」を聴いたり、歌詞を読んだりして、楽曲の感じをつかむ。 ○パートごとに音とりをして、自分のパートが歌えるようにする。 ○全体で合唱し、自分のパートの音を確認する。	◇合唱曲を聴く。 ◇曲の経緯や作詞者、作曲者の思いを知る。 ◇パートリーダーを中心にうまく進められるよう指導する。 ◇発声や言葉の発音に気をつけながら歌わせる。	アー① 〔観察〕
第2時	○「風の中の青春」を聴いたり歌ったりして、主旋律と副次的な旋律の動きや重なり方	◇CDを聴いたり、楽譜を見たりしながら、音の動きや重なり方を知覚・感受させる。	イー① 〔観察〕 〔付箋〕

	<p>を知覚感受する。</p> <p>○パートの役割を理解しながら、どのように歌ったらよいか考え、表現を工夫する。</p> <p>○「証」の旋律の動きを確認し、各パートの役割を理解しながら合唱する。</p>	<p>◇フレーズごとにパートの役割に注目して、どのように歌ったらよいか考え、話し合う。</p> <p>◇話し合ったことを歌って試してみる。</p> <p>◇原曲を聴いたり、楽譜を見たりしながら、主旋律と副次的な旋律の音の動き、ユニゾンやハーモニーで重なる部分を確認する。</p> <p>◇各パートの役割を楽譜に記入させる。</p>	
第3時 本時	<p>○<b>K</b>と<b>L</b>の部分を取り出し、それらの歌い方を、グループに分かれて考える。</p> <p>○グループで工夫したことを伝え合う。</p>	<p>◇前時で知覚・感受したことを基に、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、どのように歌えばよいかを考える。</p> <p>◇考えたことを、歌って試しながら、声部の歌い方を工夫する。</p> <p>◇自分たちで聴きながら意見を出し合い、工夫をさせていく。</p> <p>◇工夫した点を伝え、合唱する。</p>	<p>イー② 〔観察〕 〔付箋〕</p>
第4時	<p>○他の部分の歌い方を考える。</p> <p>○今までの学習を確認し、合唱する。</p>	<p>◇更に工夫したい部分について、意見を出し合い、表現の工夫をする。</p> <p>◇ワークシートに記入されていることを確認する。</p> <p>◇全体の合唱を録音し、それを聴いて、気付いたことを発表する。</p>	<p>ウー① 〔観察〕 〔演奏〕</p>

## 7 本時の学習

(1) 日時 2015年8月28日(金) 14:00～

(2) 場所 音楽室

(3) 本時のねらい

声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かしながら、音楽表現を工夫して合唱する。

(4) 展開

	学習内容	学習活動	教師の働きかけ・準備 ◇評価
導入 5分	○旋律の動きや各パートの役割について復習する。 ○本時の目標を確認する。	・楽譜を見ながら前時の確認をする。	・前時に楽譜に記入したことを見て、確認させる。 ・拡大楽譜を使用する。 ・目標の提示をする。
	パートの役割を生かし、表現を工夫して合唱しよう。		
展開 40分	○ <b>K</b> と <b>L</b> の部分を 取り出し、それらの 歌い方をグル ープに分かれて考 える。  ○声部の役割と全 体の響きとのかか わりを理解しなが ら、表現を工夫して 合唱する。  ○グループで工夫し た事を伝え合う。	・ <b>K</b> と <b>L</b> の部分を合唱 する。 ・2つのグループに分 かれ、パートの役割 と全体の響きとのか かわりを考え、どの ように歌えばよいか を話し合う。  ・話し合ったことを、 歌って試しながら、 声部の歌い方を工 夫する。  ・工夫した点を伝え、 合唱する。	・伴奏をつけないで歌わせる。 ・グループ活動の手順を伝える。 ・グループごとに拡大楽譜を用意する。 ・自分の考えを書いた付箋を楽譜に貼り、それをもとに話し合いをする。 ・グループの意見をまとめ、楽譜に記入する。 ・キーボード2台を用意する。 ・キーボードで音を取りながら、進めさせる。 ・聴き役の生徒を交代で設定し、客観的に聴いて、工夫点を見出させる。 ・巡回して、必要に応じて助言をする。  ◇声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。 (イー②) ・グループごとに合唱し、お互いに意見を発表し合う。
まとめ 5分	○ <b>K</b> と <b>L</b> の部分を 全員で合唱する。  ○本時の振り返り をする。	・自分たちの合唱を 聴き、意見を発表す る。	・全体で表現の工夫を統一させて、合唱させる。 ・録音をして、自分たちの合唱を聴く。 ・次回は、他の部分も表現を工夫して合唱していくことを伝える。

## (5) 学習評価の進め方

◇声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。(イー②)

- 「おおむね満足できる」(B)と判断できる生徒
  - ・付箋に、ふさわしい表現をするためにどのような歌い方をしたらよいのかが書いてある。
  - ・聴き役の生徒の意見を聞き、更に工夫していく点に気付いている。
- 「十分に満足できる」(A)と判断できる生徒
  - ・付箋に、音楽的な特徴を基に、このように歌いたいという意図や思いが明確に書いてある。
  - ・グループごとの活動の中で、積極的に聴き役になり、自分たちの演奏に対して、より良くするために根拠を持って意見を述べている。
- 「特別な支援が必要」(C)と考えられる生徒への対応
  - ・どのように工夫して歌えばよいかを考えられない生徒には、他の生徒の例を示しながら、一緒に考えさせる。
  - ・グループごとの活動で、工夫点に気付けない生徒には、具体的に助言をしながら気付かせていく。

## ～まとめー成果と課題～

### (1) 授業者の反省

- ・事前の授業案検討会の時には、題材の中に「歌詞の内容や曲想を感じ取り」という内容も含まれていたが、検討を重ねて今回の授業は、「声部の役割を生かす」ことに限定して行なった。
- ・「風の中の青春」を教材に取り上げ、そこで学習したことを「証」に生かす授業を仕組んだ。
- ・グループをいくつにするか悩んだ。2つだと人数が多すぎて適当な話し合いができるかどうか、また、3つだと各パートの人数が少なすぎて、自分のパートの音が正しく歌えなくなるのでは思ったが、今回は2つのグループに分けて行なった。
- ・今回の授業では、副次的な旋律のみに限定して表現の工夫をした。
- ・グループのリーダーに任せて話し合いを進めさせていったが、グループの人たちの意見を拾うことができていたかが不安である。
- ・時間が足りず、録音したものが聴けなかったのが残念であった。

### (2) 質疑応答

- ・2人のパートリーダーは、他の場面でもリーダー的存在であるのか。  
→クラスでは学級役員をしている。部活動でも音楽部に所属して活躍している。
- ・歌唱以外の分野においても、グループ活動を取り入れているか。  
→創作や鑑賞の授業でも取り入れている。他の教科でも積極的に取り入れている。

- ・アカペラでかなり音が取れていたが、普段から歌っているのか。  
→普段からやっている訳ではない。短いフレーズだったので、取れていたのかもしれない。

### (3) 研究討議

#### ①「わかった」「できた」喜びを実感する授業の工夫

- ねらいが焦点化されていた。
- 自分なりの思いをもって表現の工夫ができていた。
- 拡大楽譜が見やすかった。
- 主旋律や副次的な旋律が色分けして提示してあり、分かりやすかった。
- ▲録音したのをその時に聴いて、次につなげる意見が出ると良かった。

#### ②聴き取る力や感じる取る力を高める学習活動の充実

- 他のグループの合唱を聴くことで、自分たちのグループとの違う点に気付いて良かった。
- 「mf」「dolce」のような言葉が、話し合いの中で自然と生徒から出てきていて良かった。
- 「風の中の青春」の中で、声部の役割が理解できていて、それを生かした授業がなされていた。

#### ③子どもたち一人ひとりの思いや意図を伝え合う活動の充実

- グループ数は、2つで良かったのではないかな。
- リーダーの生徒が、「『ほどよい』とは、どれくらい？」というような投げかけができていて良かった。
- ▲他のグループの発表を聴いて、感想発表や「もっとこうの方が良い」という意見交換があったほうが良かった。
- ▲発表→改善→発表のやりとりがあると良かった。
- ▲話し合いに時間を取りすぎてしまい、歌う時間が少なかった。
- ▲グループ活動は、リーダーの意見に流されて、個が消えてしまうことがある。
- ▲「寄り添うように歌う」という意見が出たとき、言葉だけではイメージがしにくいので、歌って試してみるという活動を入れていけば良かった。
- ▲グループ活動の進行をリーダー一人が行なっていたが、まとめ役、指揮、音取りなどの役割分担をしたほうが、スムーズに進められたのではないかな。
- ▲教師のほうで、話し合いの視点を明確に持って、話し合いをさせていく必要があった。
- ▲グループでの意見を深めさせるために、教師がもっとアドバイスする必要があった。
- ▲各グループで出た意見を教師のほうでまとめて、全体で共有できると良かった。

#### ④小中9年間を見通した授業作りの工夫

- ・小学校から見て、中学生はここまでできるということが分かって良い。
- ・小学校低学年からの積み重ねが大事である。







**各パートの役割を生かして、表現を工夫して合唱しよう。**

《Kの部分》 ♪またねって言葉のはかなさ～♪

パート	役割	どのように歌えば全体の響きがよりよくなるか。
ソプラノ		
アルト		
テノール		

《Kの部分》 ♪またねって言葉のはかなさ～♪

パート	役割	どのように歌えば全体の響きがよりよくなるか。
ソプラノ		
アルト		
テノール		

《Kの部分》 ♪またねって言葉のはかなさ～♪

パート	役割	どのように歌えば全体の響きがよりよくなるか。
ソプラノ		

アルト		
テノール		

### 3年A組だけの「証」をつくろう！！

(1) 「証」の中で、「いいな」と思ったところを書こう。また、なぜ「いいな」と思ったのかを、

下の言葉を使って書いてみよう。

音色	メロディ	速度	音の重なり	強弱
----	------	----	-------	----

《1の部分》

「いいな」と思ったところ	なぜ「いいな」と思ったか
(例) <input type="checkbox"/>	ソプラノとアルトの音が同じ動きで重なっていて、きれいにハモっているから。

《2の部分》

「いいな」と思ったところ	なぜ「いいな」と思ったか

--	--

《3の部分》

「いいな」と思ったところ	なぜ「いいな」と思ったか

(2) (1)で「いいな」と思ったところをどのように歌えばいいか、グループで考えよう。

(1, 2の部分省略)

《3の部分》

「いいな」と 思ったところ	なぜ「いいな」と 思ったか	どのように歌えばよいか。 (歌詞, 曲想, 各パート, 全体の響き)
(例) <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">K</span>	少し速度が遅くなって やさしい感じになるから。	

